



ネパール・ナウリコット村再生計画 事前調査報告書 (概要版)

2009年9月
NPO 景観デザイン支援機構

目次

1. はじめに (背景と目的)
2. 対象地区の位置
3. 対象集落の構造と配置
4. 廃屋再生・再建の可能性
5. 道路・下水状況
6. 地域再生のための課題
7. ナウリコット村再生プロジェクトの方向

付. 現地事前調査団の概要

1. はじめに (背景と目的)

対象地域は、8000m級のダウラギリ峰とアンナプルナ山群に挟まれ、昔よりチベットとインドを結ぶ交易路として、またヒマラヤ・トレッキングルートとして有名なカリ・ガンダキ溪谷に面している。気候的には亜熱帯からチベットの風景に移り変わる境目にあたる景観的、人文的にも貴重な環境を残す地域である。

対象集落は、標高約2700mの小尾根上にあり、3000年前より存在するグルサンポ洞窟への巡礼により発達した歴史を持つ。産業としては自給的な農業しかなく、近年は若者の都市部への流失により、人口減少、高齢化が顕著である。このため集落内では廃屋化と住居の崩壊が進み、村の活力が衰退しつつある。

加えて、カリ・ガンダキ河沿いには、近年、下流部より道路整備が進み、自動車の進入により今後は観光客（ムクチナートなど聖地へのインド人巡礼者などを含む）が増え、周辺では安易なロッジや店舗建設が散見され、排水の垂れ流しなど生活環境問題の顕在化や周囲の自然や伝統的風土景観が壊れつつある。

このような背景の下、問題の進行による村の崩壊を食止め、当地域の世界的にも貴重な資源、資産の保全を講じることは喫緊の課題である。

これらの過程で、地域振興を実践している地元リーダーより本会役員を通して協力要請があり、本会としては現地事情を視察し、ニーズの確認を行なうため2009年4月に事前調査を行った。本報告書は、その概要を紹介するものである。

2009年9月

NPO 景観デザイン支援機構

ネパール・ナウリコット村再生プロジェクト部会³

2. 対象地区の位置

・対象地区 ダウラギリ県ムスタン郡
ナウリコット村は、ネパール国中西部
部にあり、ヒマラヤ山脈のダウラギリ
峰 (8176m) とアンナプルナ峰 (8091
m) の間に位置する。

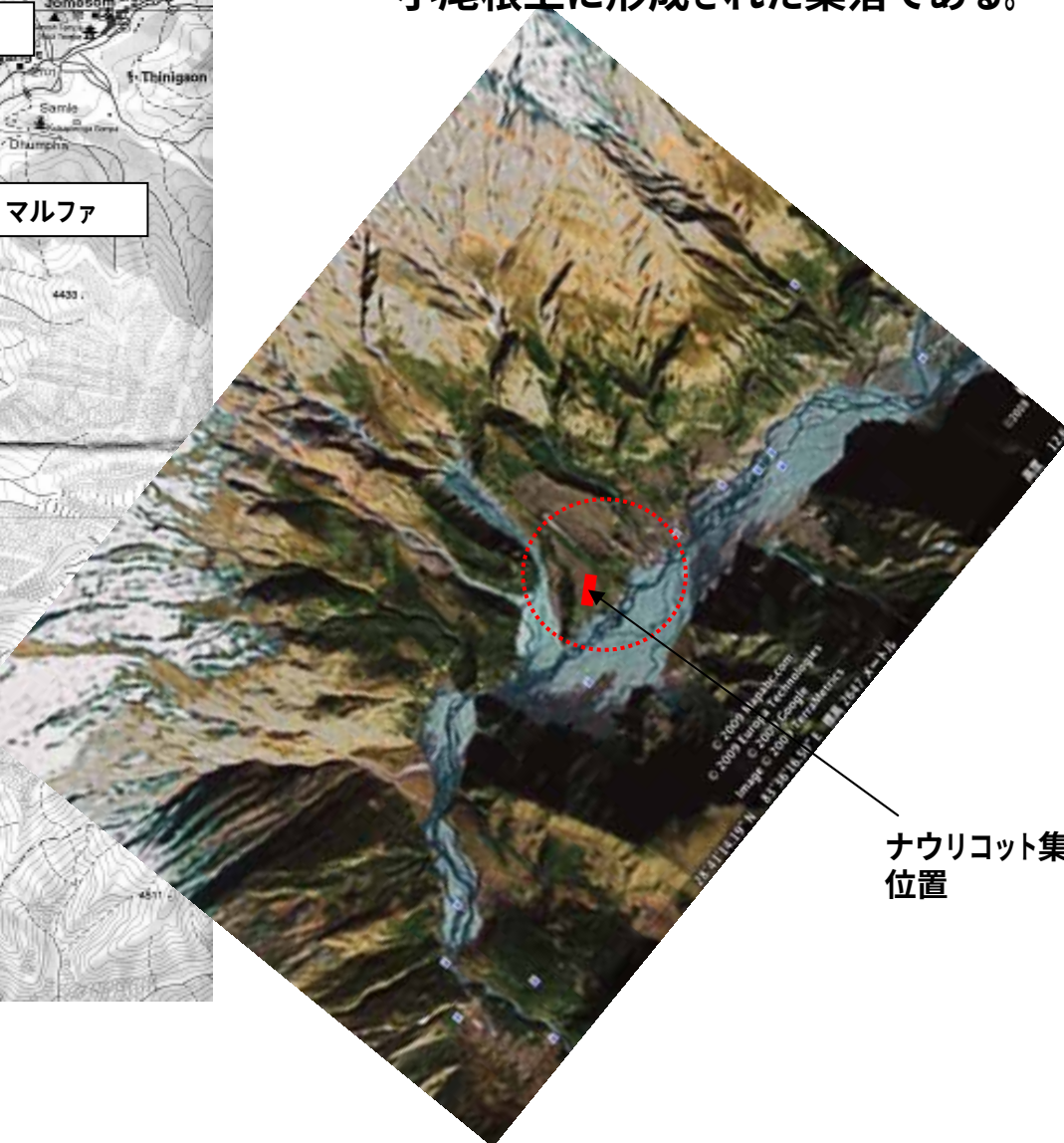
・首都カトマンズからは、約200km
西方の国第2の都市ポカラを經由し
て、ポカラから徒歩で約5日の行程
である。空港のあるジョムソンへ飛
行機を利用すれば、ジョムソンより
徒歩約5、6時間の行程である。

・なお、近年、ポカラより自動車道路
がカリ・ガンダキ川に沿って開通し始
め、車を使えば1日で到着可能であ
るが、急峻な渓谷に粗雑な造成によ
り開き、悪路であることに加えて土
砂崩れ等で不通になることも多い。





・ナウリコット村は、ヒマラヤ山脈を南北に横断して流れるカリ・ガンダキ川に面する小尾根上に形成された集落である。



ナウリコット集落位置



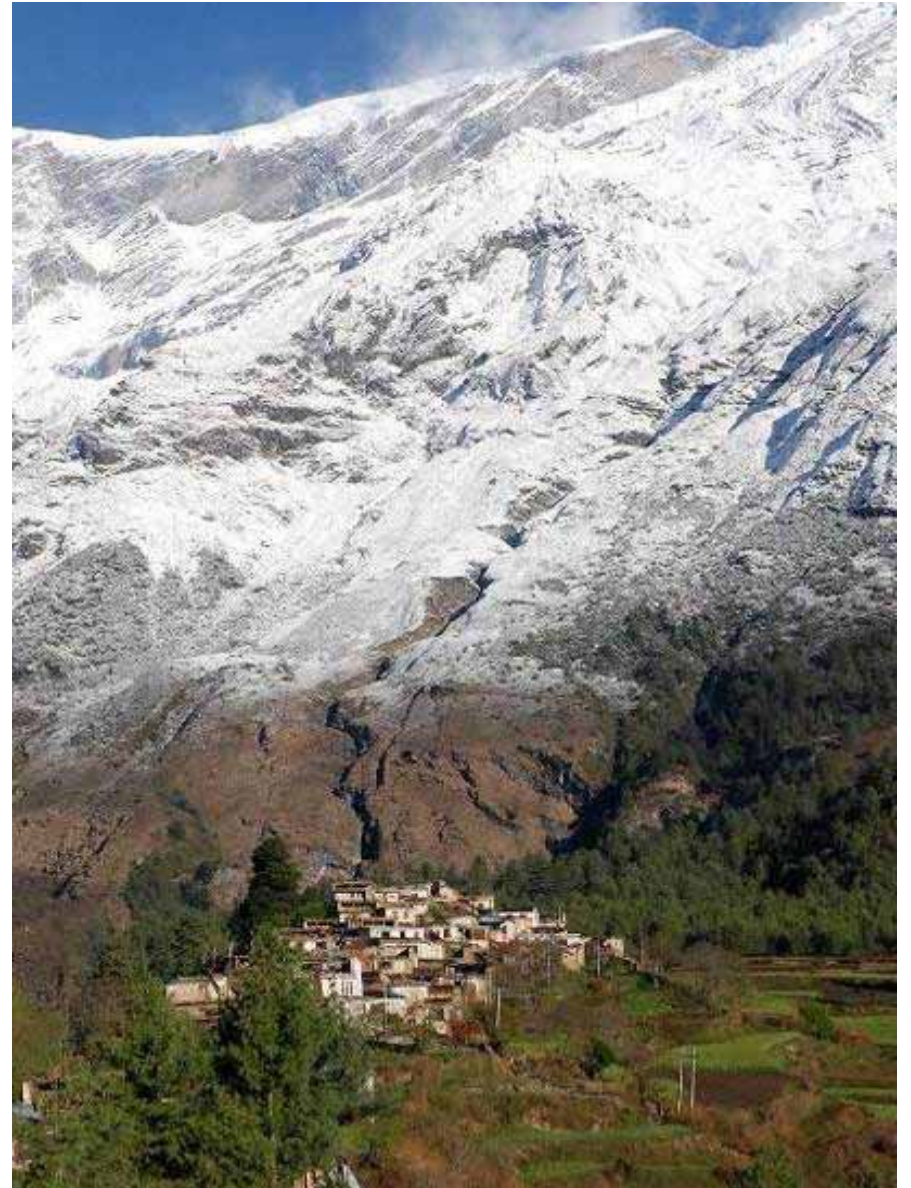
ナウリコット村入口から見るカリ・ガンダキ川の広い川原。下の村はラルジュン村。このあたりでは、やや樹林が出てくる。針葉樹が多い。下流は川幅が急激に狭くなり溪谷になる。



ナウリコット村より西方に見るダウラギリ峰



東方に見えるニルギリ峰 (アンナプルナ峰前衛)



ダウラギリ峰の東山麓に位置するナウリコット村 7



ダウラギリ峰東山麓の小尾根にのるナウリコット村

- ・戸数 30数戸／人口 約150人、標高 約2700m。西北側に樹林、南東側に畑地が広がる。
- ・自然と地形、環境と調和した風土景観。

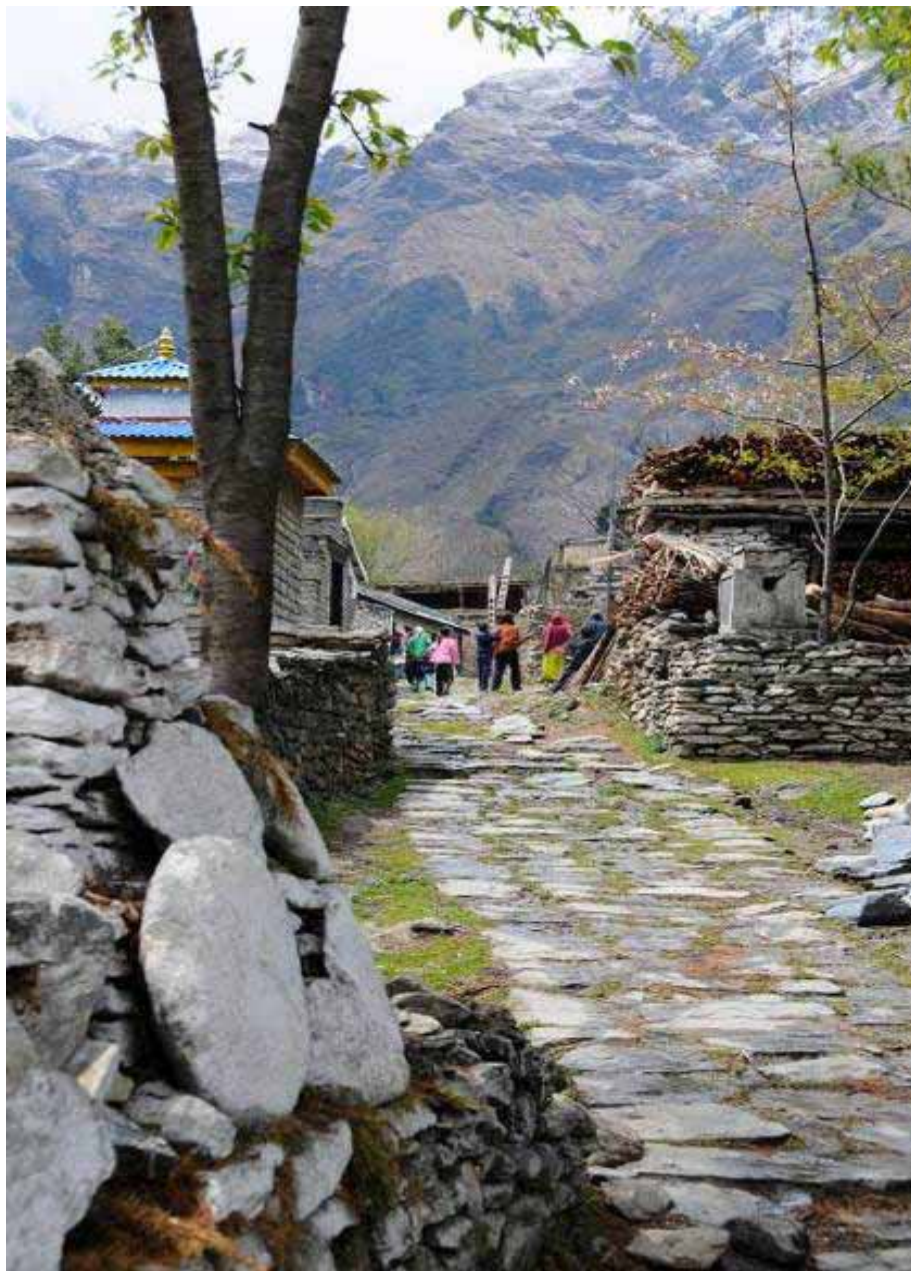
3. 対象集落の構造と配置



集落の中ほどから南側を見る。

- ・ナウリコット村はヒマラヤ有数のトレッキング街道であるカリ・ガンダキ河原 (ラルジュン村) から約100 m登り、ほぼ南北に走る小尾根上にある。
- ・集落は、3000年前より聖地グルサンプ洞窟への巡礼路として発達した。
- ・集落はほぼ一本の尾根道沿いに形成され、両側は畑地と樹林地で挟まれている。





ダウラギリを正面に見ながら村に入る。

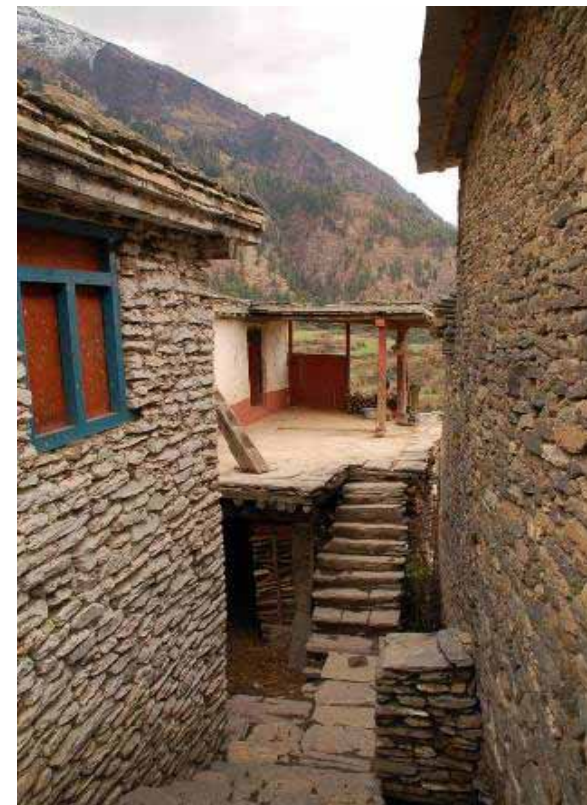


村の入口にある小学校



集落内のメイン道路 石を敷詰め地形に合わせる

土地の高低差を利用して高密度に建てられており、都市的な印象もする。

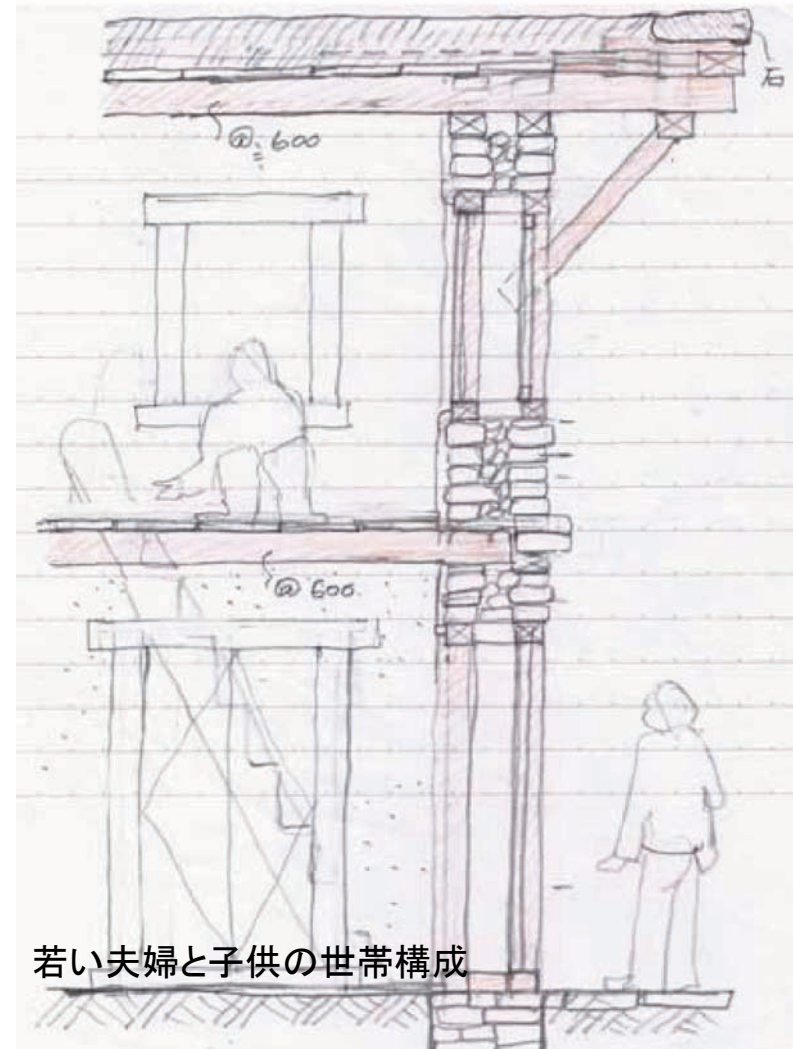


東側の畑から見る集落のシルエット



●住宅内部

・若い夫婦の世帯であるが、物が整頓して飾られている。



4. 廃屋再生・再建の可能性



- ・全体で35、6戸の集落であるが、目視する限り、数個の廃屋が残されている。

- ・さらに、現在は段畑になっている土地もかつての住居跡と思われ、昔はさらに人口・世帯も多かったと思われる。

- ・若い世代が都会に流失し、残る高齢者は村から、下の集落に住む親族の家に移り、家屋は無人化する。

- ・無人化した家屋は、木材の梁、天井が竈の煙で燻されなくなり虫に食われて腐食し、屋根が落ちる。

- ・地形的に、狭い尾根上に建物が密集し、相互に依存して建てられている住居群であるので、隣家が滅失することで構造上の問題も発生していると思われる。

- ・集落全体での住まい方など、コミュニティ維持も難しくなる。

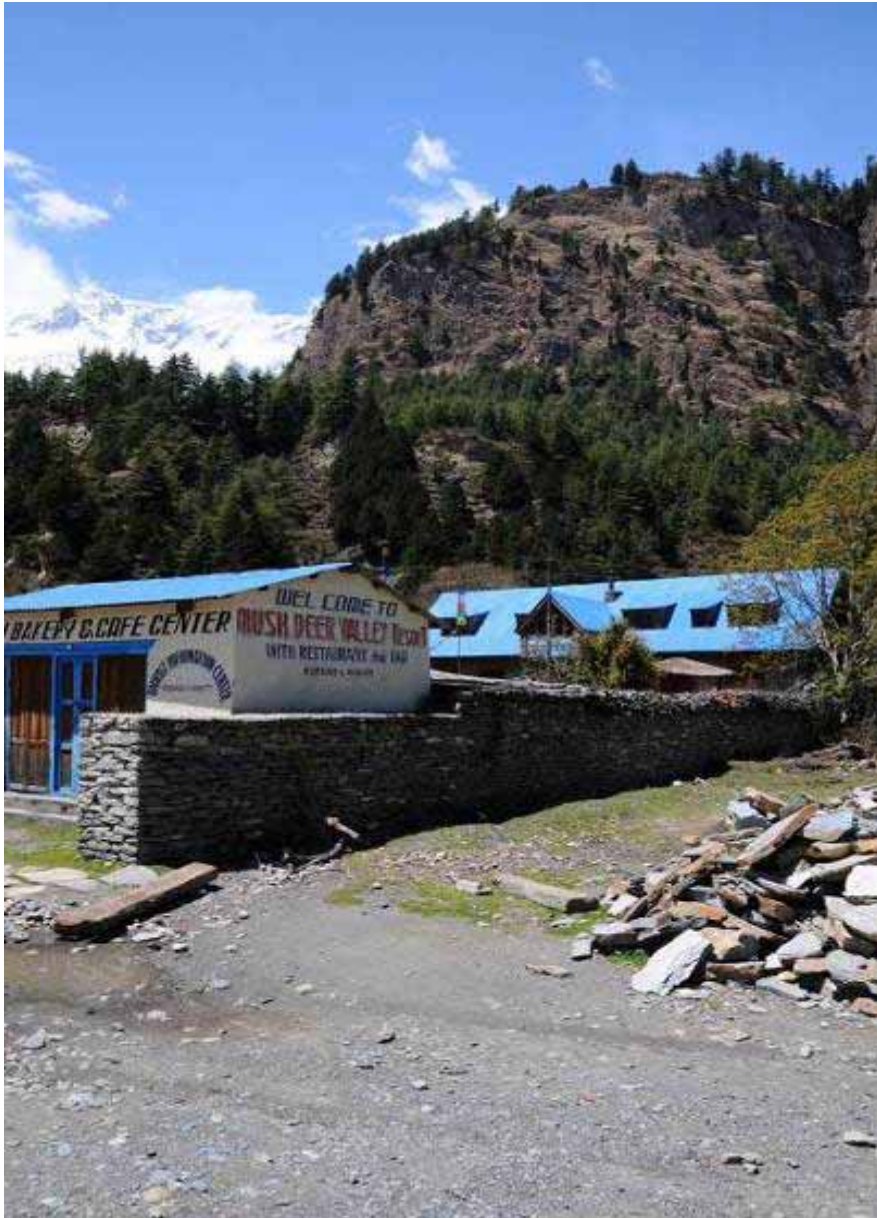


●景観上の問題 (新建材、異様式の浸透)

・近年、急速に鮮やかな青色のカラー鉄板が使われ始め、村の伝統的景観を壊している。

何らかの規制が考えられるべき。

・加えて、低地地方の勾配屋根の建築が移住者によって作られ始めた。



下のラルジュン村 (青い屋根が目立ってきた)



5. 道路・下水・防災状況



・カリ・ガンダキ川沿いのジョムソン街道は元々、馬や歩行用の道であった。

・しかし、近年、ポカラより延びるバグルン自動車道が下流部より延伸し、この1、2年で計画地周辺から更に、上流の聖地ムクチナートまで開通した。（このため、ポカラより当地は陸路で、一日行程となった。）

・幹線道路として、政府レベルで推進されている事業であるが、急峻な地形や河川内を通過するため、自然地形や環境と馴染ませて造成されるべきである。

・現在は、車と歩行者、トレッカーが混在している。近い将来には、ジョムソン街道自体は、トレッキングの歩行ルートとして存続が難しいかも知れない。

・沿道の村の中の旧道は歩行に快適だが、車の進入に荒らされない対策が必要である。



●豊富な水

・周辺の谷川から集水してタンクに入れ、パイプで各戸に送水している。将来的には、家畜等による水質汚染が懸念される。

●トイレ・排水

- ・汚水は、素穴を掘って溜め込む方式。
- ・トイレは基本的には戸外あるいは隣接して各戸つつあるようである。
- ・建物の1階は家畜小屋になっており、松葉を敷詰め、家畜の糞尿と混ぜて堆肥をつくる。
- ・最近、街道筋では浄化槽方式が増えているようだが、処理が不十分なものが多く、カリ・ガンダキ川の汚染の心配がある。



6. 地域再生のための課題

1) ナウリコット村及び周辺地域の課題

①村の社会経済構造

- ・近年、教育の普及とともに外部情報が入り、都会の生活に憧れて若者の流出が顕著である。高齢者が残り、村の沈滞化につながる悪循環などを断ち切り、村の崩壊を防ぐ再生計画が必要である。
- ・村の産業は農業だが、大麦、とうもろこしが中心で自給自足型で外部へは販売していない。人口が減少し、休耕地が目立ってきた。JAITI (日本の援助団体) が試験的に栽培を始めているようである。
- ・村の経済構造の構築。観光を主軸として、宿泊施設、地産地消的農業、付加価値の創出が課題である。

②道路開通の影響

- ・政府の道路計画による道路整備が進行し、この影響による開発インパクトは避けられず、現在の自然や環境に馴染んだ風土景観保全のための沿道開発規制が必要になる。
- ・車とトレッキング客との混在は将来、トレッキング路としての観光的価値を失わせる恐れがある。
- ・通過交通のためのバイパスを設置し、村内の快適な歩道環境は守られるべきである。
- ・聖地ムクチナートへのインド人巡礼者の増加が予想される。当地域から、ムクチナートへの車による日帰り巡礼が可能になり、大きな開発圧力になる。(大祭の時は、1万人単位での来訪者が予想される)

③建物・景観

- ・崩落建物の増加とその対策 (空家化の防止、廃屋の再利用、等)
- ・建物の伝統的様式、風土景観の保全。景観的に異質な勾配屋根、青い鉄板屋根の規制

④トイレ、排水設備、その他のインフラ

- ・排水処理上、問題のある浄化槽方式に替わるバイオトイレ等の開発。有機農業との関連性研究
- ・豊富な水の活用 (電力、動力、飲料、産業、街の清掃、等への活用)
- ・村内道路整備と洗濯、食器洗い等の生活排水対策
- ・街道から村内への取り付け道路整備が進行中であるが、造成については慎重に行う必要がある。

ナウリコット村再生プロジェクト 構想案叩き台

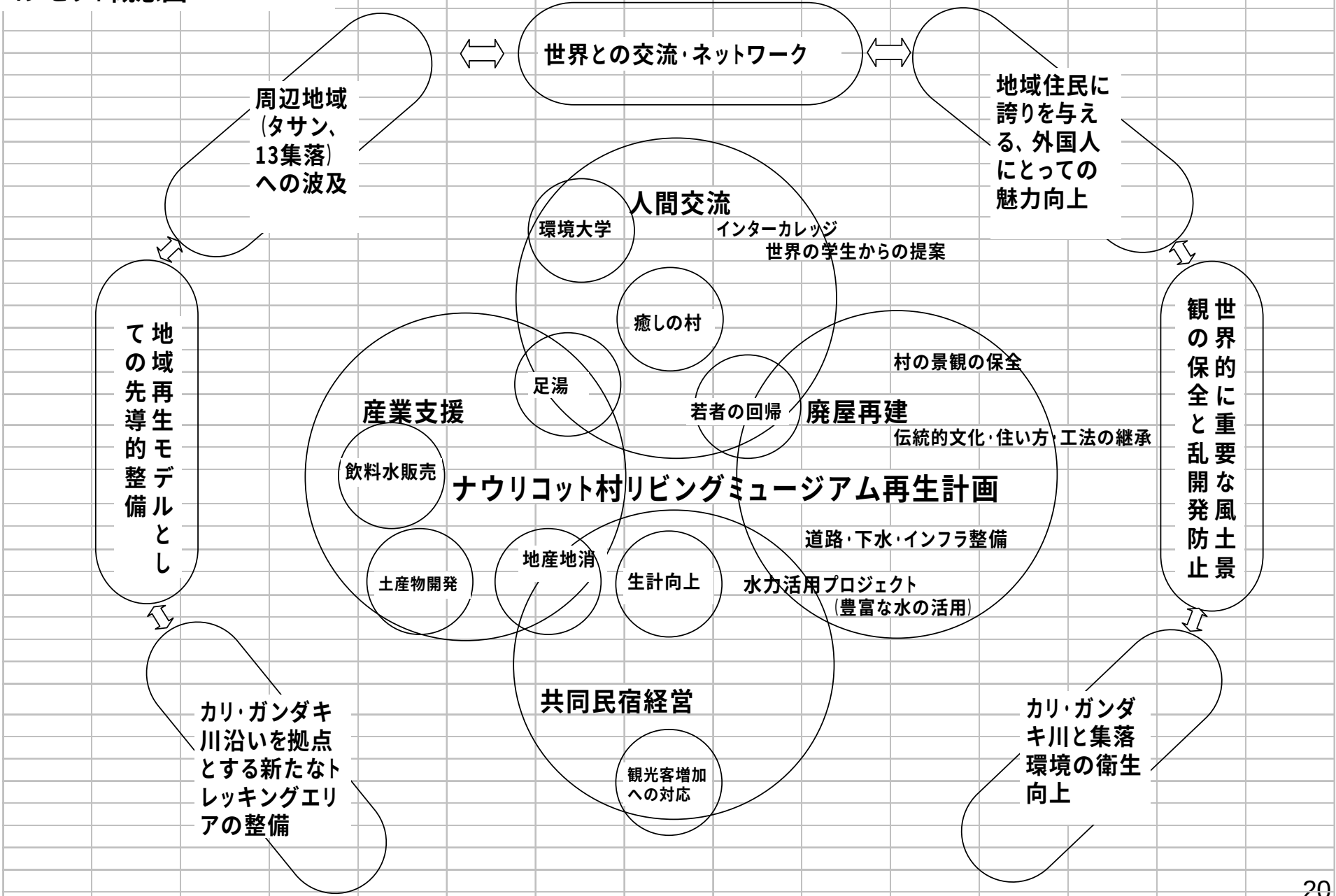
*内容は現在、検討中のものです。

現状	人口 約 150 人 世帯数 35、6 戸 タカリー地域全体 では 13 の集落	標高 2700m 自給自足的農業 牛、鶏、ヤク放 牧（高地）	ヒマラヤ有数の巡 礼路、トレッキン グ街道 （観光ポテンシャル高）	信仰の村 3000 年前よりゲル サポ洞窟への巡礼 により発達	亜熱帯からチベ ット気候に変わる 貴重な地形、風 土
進行中の 問題	若者の流失、人口 の高齢化と減少	空き家の発生、廃 屋化、家屋の崩壊 災害危険、不衛生 環境の発生	自動車の進入に よるインド人巡 礼・観光客など の急増	生活排水・汚水 問題の発生、カ リガンダキ川の 汚染	安直な新建材によ るロッジ等の建 設、伝統的地域景 観の破壊
課題と目 標	若者の回帰・定着 人口復活と活性化	一定の産業起こし 就業、収入確保	生活・生計向上	地元にとっての 誇り、自らの魅 力の気づき	外国人にとっ ても魅力の向上

構想の コンセプト	基本テーマ：村全体をリビングミュージアムとして再生する タカリー族の伝統・風習を守った魅力ある村をつくり、地産品を開発し、外国人にとっての魅力を向上し、 地元ネパール人に希望と自信を与えるためのモデルプロジェクト。				
	廃屋再生プロジェクト ・廃屋を再建し、民宿として再生	産業支援プロジェクト ・地産地消、土産物、民宿経営	水を主軸とする再生プロジェクト ・動力、発電、水販売、など	人間交流プログラム ・癒しの村、足湯、トレッカーと村民のコミュニケーション	環境・教育プロジェクト ・環境学校、インターカレッジ構想

今後の進 め方 (予定)	・事業化に向けて人と組織の強化（国内、現地） ・専門家との協働 ・個別プロジェクトの詳細計画の立案 ・JICA、外務省支援事業のための準備と申請	・次回 現地調査等のツアー企画 2009 年 11 月（予定） ・9 月初旬に詳細公表 ・現地組織・政府、大使館との協議	JICA 草の根技術協力事業等の開始予定 2010 年秋	事業期間（第 1 期） 約 3 年間
--------------------	---	--	--	----------------------------------

●コンセプト概念図



付. 現地事前調査団の概要

①訪問国・地域:ネパール国 ダウラギリ県ムスタン郡ナウリコット村、ポカラ、カトマンズ

②調査期間 (視察ツアー実施期間) :2009年4月5日～2009年4月16日

③調査メンバー: 高橋 徹 (TDA副代表理事、(株)日本設計、調査団リーダー)
曾根 幸一 (TDA代表理事、曾根+環境設計研究室)
土田 旭 (TDA理事、(株)都市環境研究所)
吉田 慎吾 ((株)カラープランニングセンター)
小林 正美 (明治大学)
山内 昭夫 ((株)日本ランドデザイン)

④調査目的

ネパール中西部、カリ・ガンダキ渓谷沿いのナウリコット村周辺は近年、道路整備などに伴う開発インパクトの影響を受け、生活污水問題や安直な建替えによる伝統的な集落景観の破壊が懸念されている。この度、地元住民からサステナブルで環境に配慮しつつ、住民の生活向上に役立つまちづくり方策のアドバイスを依頼され、その事前調査として地域住民ニーズの把握と課題整理、可能性のある事業の発掘を目的に現地調査を行う。